



yonobi ルールベースAIソリューション

株式会社オージス総研 BRMSソリューション部

アジェンダ



- ソリューションの背景
- ルールベースAIソリューション
- yonobi
- ユースケース別の構成例
- 適用事例

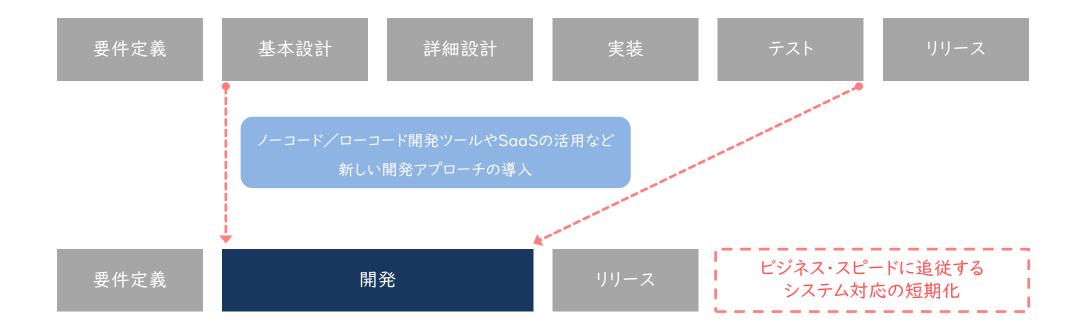


ソリューションの背景

ソリューションの背景



DX時代の業務システム開発では、これまで以上に加速するビジネス・スピードに追従するため、システム対応の短期化を実現する必要があります。その実現に向けて、ITエンジニアのリソースに依存する従来型の開発を代替する手段として、新しい様々な開発アプローチが試行錯誤されています。



業務システム開発の課題



1. 業務ロジックの難しさ

業務システム開発は、複雑な「業務知識」や「業務ルール」を理解して「業務ロジック」として正しくITシステム化する作業です。この作業は、業務とITの両方の専門領域への精通が必要なため、難易度が高い作業となります。

2. 業務担当とIT担当の分業化とブラックボックス

多くのプロジェクトでは、業務とITの担当を専門領域で分業化します。その結果、「業務ロジック」は、IT担当のみが変更できるプログラムにより実装され、業務担当は、「業務ロジック」を確認したり変更したりできません。

3. SaaSを活用できる業務は限定される

時間や人を投じて「業務ロジック」を作るのではなく、SaaSとして提供されるサービスを利用する手段があります。しかし、SaaSの利用はコモディティ化できる一部の業務に限定されます。企業固有の多くの「業務ロジック」は、SaaSで実現することは困難です。

4. ノーコード/ローコード開発ツールの不得意分野

業務担当が直接開発する手段として、ノーコード/ローコード開発ツールを利用するという手段があります。代表的な ノーコード/ローコード開発ツールでは、画面やデータベースなどの「業務ロジック以外」の部分は簡単に構築できます。 しかし、複雑な「業務ロジック」の構築には、プログラミング同様の高度なスキルが要求されます。

ソリューションの方向性

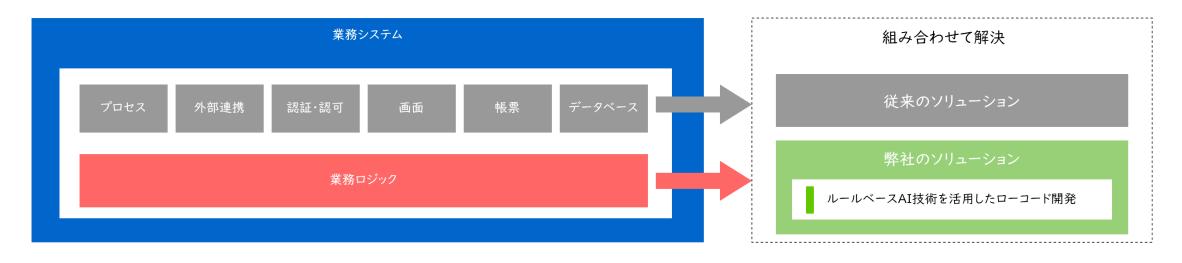


業務ロジックの課題にフォーカス

弊社のソリューションは、業務システム開発の「業務ロジック」の課題にフォーカスします。「業務ロジック以外」の課題については、従来の様々なソリューションと組み合わせて解決します。

業務担当とIT担当の協調開発へ

従来の業務担当とIT担当が分業化されたプログラミングベースの開発から、業務担当とIT担当が協調して開発できる「ルールベースAI」技術を活用した開発スタイルへと変革し、DX時代に求められるビジネス・スピードに対応するローコード開発でのITシステム化を実現します。





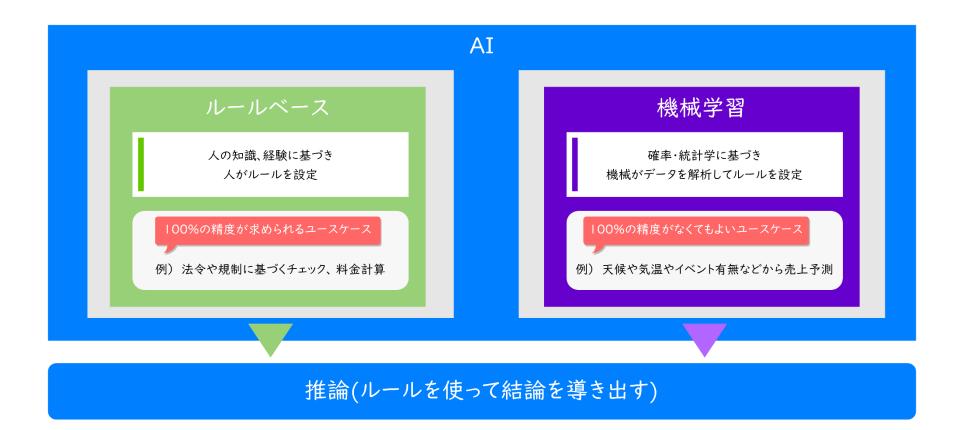
ルールベースAIソリューション

AI



ルールベースと機械学習の2つのタイプ

AIは与えられた入力データからルールに基づいて結論を導き出す「推論」を自動化する仕組みです。 AIはルールベースと機械学習の2つのタイプがあります。



ルールベースAI



 ルールベースAIは人の業務知識に基づく「デシジョン」をデジタル化する技術 業務知識(法令、規定、経験、ノウハウ等)に基づいて人が手動で実行している「デシジョン」(意思決定 =業務ロジック)を、形式化・デジタル化して自動で実行できるようにする技術です。

AIが自動で行うデシジョン(意思決定)

人が手動で行うデシジョン(意思決定)

| スペール | スペールル

ルールベースAIのデシジョン



ルールベースAIが得意とするデシジョン

業務知識をルールとして形式知化できる場合、あらゆる分野のデシジョンに適用できます。得意なデシジョンの例としては、「適格性判定」、「検証」、「計算」、「分類」に関するデシジョンがあります。

この資料にご興味をお持ちいただけましたら、 是非ダウンロードを お申込み ください。

一度お申込みいただくと、ルールベース開発に関連した掲載資料を すべてダウンロードいただけます。

お申込み